

3-⑯ 指導方法・評価等の工夫・改善

外国語活動，外国語科の指導方法と評価等の取組

阿賀野市立安田小学校 土田 暢也

1 研究の視点に関する実態

(1) これまでの取組と課題

①指導方法

- ・阿賀野市や新潟県主催の外国語活動指導実技研修会の参加の促進
→夏季休業中の研修にもかかわらず，若手や高学年担当は参加するが，他学年の担当の参加が少ない。
- ・指導方法等にかかわる冊子や文書の活用の促進
→研修意欲のある職員は積極的に活用しているが，そうではない職員との個人差が大きい。
- ・校内における外国語活動の授業公開及び研修の実施（教育委員会訪問や授業参観等も含む）
→関係学年（高学年担当）の参加は多いが，その他の学年の参加が少ない。
→様々な会議や他の校内研修の計画が優先され，外国語に関する校内研修の時間が限られている。
→研修計画等が整備されていないため，計画的な外国語活動の校内研修を実践していない。研修会への参加も少なく，職員の中での外国語科への意欲，英語力，指導力の差が大きい。

②評価

- ・校内研究(国語、算数)、WEB 配信問題、NRT、家庭学習等の取組が中心になり，外国語活動と学校評価等とのリンクがなされていない。

2 改善のための具体的な方策と取組内容

(1) 方策と取組内容

①校内英語中核者教員の養成

- ・中核者教員による授業公開の実施
- ・長期休業中における校内英語中核教員による全職員参加での計画的な校内研修の実施
- ・英語教育推進リーダー中央研修DVDの活用と実践研修

②職員の実態に応じた研修

- ・職員に外国語活動への困り感をアンケートした上での校内研修
- ・ALT派遣会社との連携での30分程度の英語力向上研修

3 取組の成果と残された課題

(1) 成果

- ・全職員参加型の研修にすることで，研修意欲の差を少しずつ埋めることができた。
- ・要望（困り感）に応えた研修を実施したことで，内容を精選した研修ができた。
- ・理論よりも実践的な研修にしたことで，すぐに授業で活用することができた。

(2) 課題

- ・学級担任の外国語活動にかかわる理解よりも意欲に差がある。→継続した研修を行う。
- ・中核者教員の負担が大きい。人材育成を計画的に行う。
- ・計画的な研修の実施に必要な時間を確保する。（他の研修、行事等の精選）